

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 3270400967 | | |
| 法人名 | 有限会社楽舎 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(東舎ユニット) | | |
| 所在地 | 島根県出雲市奥宇賀町23番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年7月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年11月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ワイエム | | |
| 所在地 | 島根県出雲市今市町650 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年8月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>東舎は、スタッフから笑顔や笑いを積極的に発信して、日々にぎやかに明るく実践している。支援する側が楽しむ事・笑うことにより、利用者の方々にも笑顔の連鎖がみられる。利用者9名が一緒に何かを行う、ということは難しい場面が多々あるので、それぞれの特性や性格に応じて役割や楽しみを持って頂き、各々が輝ける場所(台所・洗濯物・掃除・レク作品(役割分担等))で活躍して頂けるようにしている。好き・嫌い、出来る・出来ないの見極めをスタッフで共有して、さりげない支援を意識している。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--------------------------|
| <p>「西舎ユニット」に記載しています。</p> |
|--------------------------|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | なじみの地域で、刺激ある生活をしていただけるよう、2つの大きな理念を常に念頭におき、それに結びつく支援を心がけ、実践している。また、毎月の理念も掲げ、その時期にあった取り組みや目標を設定している。(新人研修時の伝達、毎朝の唱和は継続して行っている) | ※「実践状況」と「次のステップに向けて期待したい内容」は、「西舎ユニット」に総評して記入しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年で8回目の参加となる「福祉フェスティバル(音楽療法の参加)」と毎年12月に行っている「1年間元気に過ごせてありがとう会(食事会)」など地域へ向けての啓発事業や社会参加・行流を行う事で楽舎の取り組みを知って頂いている。地域の方に呼びかけ、巻き込んで消防訓練を行ったり、ボランティアとして楽舎に来て頂き、行事への参加(大正琴、笛巻き等)を通じてつながりを持ち、取り組みや支援を理解して頂いている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の保育園・幼稚園・小学生さん(歌の発表、演奏)や中学生さん(体験学習)が来られたり、逆に園の行事や給食会、卒業式に招待されたりと交流を継続して行っている。生徒たちも利用者様との関わりの中で、過去のことを知る勉強になったり、人間力の構築に繋がる体験になっているのではと感じる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度は、奇数月で開催している(年6回)。参加者からのアドバイスや助言については、スタッフで共有し、支援の見直しや取り組みにつなげている。また、ご家族様からのご要望、意見など聞いて、より良い運営につなげていく努力をしている。たくさん参加して頂き、意見交換が出来るよう面会時に呼び掛けたり、電話して出席をお願いしたりしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 情報交換をしっかりと行っている。疑問点や不明な点があれば連絡して、返答を頂いている。また、運営推進会議時や市役所へ出向いた時に、楽舎の状況を報告して、その都度取り組みの様子を伝えている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 該当する外部の研修へ参加して、情報を得ることを行ったり、楽舎にて内部研修という形でスタッフ全員へ周知するようにしている。また、「鍵をかけないケア」を継続しており、リスクへの配慮は行いながらも、自由な風通しの良い事業所作りをしている。日々の支援においてもスタッフ同士で確認したり、勉強したりして情報伝達をしている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 上記と同様、積極的に外部への研修へ参加している。言葉遣いという点で、スタッフ同士で指摘したり、確認するやり取りを徹底している。「虐待」があることを知り、知識として頭に入れておく必要があることを内部研修で伝達している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修などで日常使用すべき利用者さんへの言葉遣いなど気をつけている。成年後見制度について理解を深めている。また、研修を行う予定である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時また改定がある前に、家族さんに説明し、理解を得ている。決定した事についても、面会時に直接説明したり、お手紙にてお知らせしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に利用者、家族さんに出席して頂き、意見交換し、反映させている。個々に病院の受診等の時に、家族さんの要望等も聞き対応している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送り時や、内部研修、年1回の人事考課にて、スタッフの意見や提案を反映させている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人、ユニットごとに年の初めに目標を定め、それに向かい向上心を持って取り組んでいる。個人的に悩み、相談事がある際には、その都度個人面談を行い問題等解決されている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部、内部研修に積極的に参加している。参加できなかった人の為にも、レポート、資料を提示し、全員が理解できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他のグループホームとも交流をはかり、良いところは取り入れ、向上をはかっている。勉強会等で得た情報もスタッフに解りやすく伝え、サービスの質の向上を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | お試し入居、体験、入居される前に本人に面会に行きアセスメントしたり、また見学に来て頂き顔つきをしながら、カンファレンスを行い、入居者様の想いを把握し、安心を確保する為に情報の共有に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に施設見学して頂いたり、入居時に要望用紙に、ご家族様に要望を書いて頂いている。お話を聞いたり、ご家族様が不安に思っておられる事等把握するように努めている。入居後面会に来て頂いたり、細めに状態の変化を連絡したりし、信頼関係が築けるよう心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族様の想い、困っている事を聞き、把握し、どんな支援が必要か最初の段階で情報を得て見極めている。それに見合った支援方法、サービスを提案、提供し少しでも不安をなくし、安心してサービスを利用して頂けるよう対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | スタッフが調理や洗濯をしていると入居者様が声をかけて下さり、共に調理等行っている。またその姿を見られ、沢山の入居者様が来られにぎやかに家事等行っている。その中で物を大切にする事、暮らしの知恵、食糧の大切さ等々教えて頂いている。家事を中心に出来ることはやって頂き、時には入居者様主導で頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様が面会時に本人様の好きだった曲を流されたり、食事介助をされたりと、ご家族様との一時を大切にしてもらっている。また、年2回大きな行事として福祉フェスティバル、ありがとう会に参加して頂き、ご家族様との絆、想いを深めて頂けるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の方から、手紙等来た場合、いつでも返事を書かれるよう支援している。また馴染みの方と一緒に外出、外食されたりと入居された後も関係が途切れないよう支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様1人1人の性格を把握し支援している。ホールでは1人1人の性格を踏まえ、席を考えている。またレク等輪になかなか入れない場合はスタッフが間に入ったり、場面を一度変えたりし、1人ひとりが孤立しないよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も行かれた先の施設や病院へ面会に行き、楽舎での思い出の品や季節の作品を持って行き、飾ったりお話をしたりして、つながりを大切にしている。退所時には必ずアルバムを作って家族様に手渡しして、何かあれば相談に乗れるよう連絡先も一緒に添えている。楽舎の助死士としての関わり(退所後も最後まで関わりを持ち見守る) | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | テレビやラジオなど、その方にとって生活が豊かになり、必要な物があれば家族とも相談し、持ってきて頂いている。毎日の記録をモニタリングして、その方の思いを汲み取り、より安心できる暮らしをして頂ける様、必ずご本人と話し合っって検討し、ケアプランを作成している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでのサービスの情報をもらっている。入居時、家族様からの生活歴、生活プロセスなどを書いて頂き、入居者様との会話からどのような人生を送って来られたのか、把握に努めている。細かなしぐさ、行動や言葉からも生活リズムや思いを感じとり、支援につなげている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 身体状況を記録する表があり、毎朝全員のバイタルを計り、異常があれば再検査し、誰が見ても一目で解る様にしてある。また水分、排便、食事も記入できるようにしてあり、身体状況を把握している。気づいた事は検討会議録・モニタリングを行い、スタッフ同士共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議の時点でご本人、家族とお話をしたり、面会時にどのように楽舎で過ごして頂きたいのか、その時の状況に合わせて希望・要望をお聞きしている。安全に過ごせるよう現状にあった計画を立てる。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランの長期・短期目標の評価、日々の気づきや状態を毎日カルテに記録し、気づいた事はスタッフ間ですぐに共有出来るようにしている。申し送り中(検討会議)スタッフで話し合う場を作り、その都度計画を見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居される前に情報をしっかり把握する。家で使い慣れた愛着のある物を持って来て頂き、家を再現して(居室の配置)安心感を持って頂く。家族の面会時には、ゆっくり落ち着いてお話が出来るよう必ずお茶をお持ちし、心地良い空間を作る。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小学校の学習発表会、運動会卒業式等心豊かな時を過ごす。コミセン文化祭、銀行への書、俳句、絵の展覧、本人の力発揮を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の思いを重視し、入居前からのかかりつけ医を継続したり安心した医療が(24時間)受け入れる体制にある受診も家族さんの都合も考えてそれぞれの支援をしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 心身アセスメントシートを活用したり、日々の関わりの中で何か違うと気付いたら、看護師に様子を診てもらったり、かかりつけ医の指示を得て受診、看護を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院カンファレンスしたり、ケアプランを渡したりと、本人・家族が安心して治療できるよう、事業所、連携室と情報をお互いが確認しあう。スタッフが面会に行き情報を得ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状況に応じて説明をその都度している。本人・家族様の思いを事業所、かかりつけ医と話し合い、情報を共有し「ありがとう」の気持ちを持てる様、信頼関係を築いている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 個人バイタル、急変時値など把握し、日ごろから病院等、看護師、かかりつけ医からアドバイスをもらい、応急手当が出来るよう身につけている。119対応の訓練もしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防訓練を行っている。その都度、利用者様の身体を再度把握し、災害時にスムーズに動ける様、訓練している。又、地域との連絡伝達訓練を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様に丁寧語を使い声かけをしている。外出される際には、入居者様の意見を聞きながらおしゃれな格好で外出して頂いている。(若年性の方には下着等、又パットなどハンカチ等で見えないように包んだりして気をつけている) | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 着替えの時には、入居者様に服を選んで頂いたり、食事の際にも選択しがある場合には、入居者様の好みを聞いて支援している。ドリンク表を作ったり、バイキング、にぎり寿司パーティーを行ったりと日頃より自己決定の機会を持って頂き生活している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | おおまかな1日の流れはあるが、入居者様の体調も考慮して、無理のない様に、食事のペースや生活ペースに合わせ支援を行う様にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回の移動美容車が来るので、カットやパーマ、毛染め等の希望を伺い、また朝の整容などしっかり行い、外出際には、化粧したり、顔そりなどの身だしなみには気を使っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様には、食事を通して匂を感じて頂いたり、食事の準備や片付けを会話をしながら、参加して頂ける様な支援をしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の水分量や食事量は、時間帯をくぎって解りやすい様にカルテに記入している。食事は食べやすいように、水分は飲みやすい物を聞きながら支援している。(茶ゼリー・カロリーのあるもの)松花弁当を使って食の見当識に働きかけるなどしている。1食分を3分割にしたりもしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、入居者様にあった歯磨きや、うがい、舌磨きで口腔内を清潔に保って頂く支援を行っている。義歯は洗浄剤につけて頂いている。週1回口腔ケア用品の洗浄を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、その方のタイミングでトイレ誘導をしている。1日約10回くらいの定時誘導、声かけを行っている。男性用トイレには、床に赤いテープを貼ったり、トイレまで自分で行ける様に案内の紙を貼り支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の事をしっかり理解して頂き、水分を取って頂いている。体操で、腸の動きを良くなるように腹部マッサージやホットパックを取り入れている。便を下げる為の歩け歩け運動をして、なるべく下剤を使用しない様にしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には2日に1回だが、本人様が入浴したいと思われる時に、入れる様にほとんどの日を入浴日にしている。季節に合わせて気持ちよく入浴出来るように、ゆずや菖蒲などで季節を感じて入浴して頂いている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間ぐっすり休んで頂ける様に、日中しっかり体を動かして頂いたり、日光浴を行っている。寝られる前に、安眠作用としてホットミルクを飲んで頂いたり、ゆったりとした声かけで気持ちを落ち着かせて休んで頂けるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬変更時、しっかりと申し送りをしてスタッフ同士共有し、確認している。誤薬がない様に、薬を飲んで頂く時、名前、日付を声に出し服薬して頂いている。薬局と連携し、薬剤管理指導もして頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 体を動かすのが好きな方には、歩け歩け運動や外の散歩、書を書いたり、絵を描いたりとその方の生活歴を活かした支援に取り組んでいる。料理のお好きな方には、台所で一緒に食事を作って頂いたり、歌の好きな方にはカラオケをしたりして支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日に愛宕山でお茶をして頂いたり、地域の行事、展示会の参加、買い物と一緒に出かけたりしている。四季折々の風景ドライブなど楽しんでる。(海・風車) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一緒に、買い物に行き、希望されるものを買って頂く支援を行っている。お金の大事さを解って頂く様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や大切な方に電話の要望があればすぐに対応しています。毎年年賀状を書いて頂き、家族様と入居者様の絆を深める支援を行っている。教え子さんとの交流もあり、その人の過去歴に働きかけ、一緒に喜びを楽しんでいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールにはその月ごとに合わせた季節の作品を利用者様と作り飾ったり、お花を生けたりしている。廊下には月ごとに作った作品を1月から飾り、作品を見て楽しんで頂いている。トイレ、浴室など解りやすく大きな張り紙をしている。毎日温度計を見て空調管理を行っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下にたたみのベンチがあり、ホールの一角にソファを設置し、入居者様がお茶をしたり、お話をしやすい空間作りをしている。夜寝れない時等廊下に出てベンチに座っておられたりと、一人の空間を上手に利用しておられる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の大事にされている家具や写真などを設置して居心地良く生活して頂ける様に工夫している。入居者様、家族様の意見を取り入れつつ居室作りをしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 1人1人の行動をしっかりと把握して、張り紙をするなど、自立して生活出来る様にサポートしている。転倒リスクの高い方にはしっかり手すりを持って頂き、見守りながら支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|----|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | | | | |